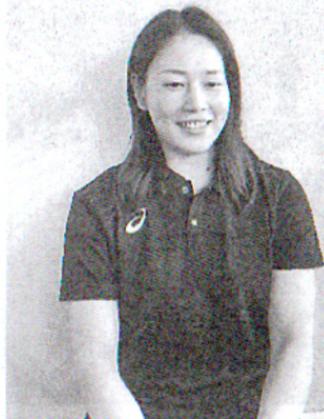


ハンド女子代表 遠征先から会見

大山（北国銀行II）「五輪で勝つ準備を」



遠征先のデンマークからオンラインで記者会見するハンドボール女子日本代表の大山（日本ハンドボール協会提供、写真上）とキルケリー監督＝19日



「五輪本番の選手選考については「おそろくデンマークに来てはいるメンバーから選ばれていくと思う」と話した。大山は「海外選手と日本選手は（体の）大きさが手の長さが違う。オフセンスでもデフエンスでも、相手との間合いやタイミングといった感覚を取り戻したい」と課題を見据えた。また、主将の原希美（三重バイオレットアイリス）は「久しぶりの海外遠征。欧州での戦い方を思い出し、チームとしても個人としても、強さを出していきたい」と意気込んだ。チームは6月8日に帰国する予定。

ハンドボール女子日本代表が19日、開催国枠で11大会ぶりに出場する東京五輪に向け、遠征しているデンマークからオンラインで記者会見を行った。高松商高出身の大山真奈（北国銀行）は「五輪まで残り2カ月と少しになった。チームとしても個人としても勝つための準備をしっかりとしていく」と決意を語った。日本リーグ・プレーオフでの7季連続8度目の優勝に貢献し、最高殊勲選手賞に選ばれた大山。負傷で一時戦列を離れたが、「1対1、スナップショット」といった個人スキルや、ゲームを60分間コントロールすることに重点を置いてやってきた。今回の遠征

でも強化してきた部分を積極的に出していきたい。今回の遠征には日本から、いずれも高松商高出身で北国銀行所属の塩田沙代、河田知美ら計20選手が参加、欧州のクラブでプレーする3選手も合流する。キルケリー監督は代表チームと兼務で指揮を執っている強豪クラブ・オーデ